

音楽プロデューサー・ドラマーインタビュー 宇津本直紀さん

apollo（以下**アポ**）ドラムはいつ始めたの
のでしょうか？

宇津本 小学5年生の時、運動会の鼓笛隊で中太鼓をやりました。中学1年生では吹奏楽部でティンパニーなどの打楽器を担当していて、中学2年生の終わり頃には打楽器のパートリダーになりました。その中学では打楽器のパートリダーはドラムセットを叩くという伝統があり、それがドラムを始めたきっかけです。

アポ ドラムの魅力を教えてください。
宇津本 長いツアーではとても疲れるし、ボーカルのように目立たない辛いポジションだけど、ドラムは自分のカウントから曲をスタートでき、ショー全体の盛り上げや緩急をコントロールできるのでライブ会場を自分が動かしているのが面白いところですね。

アポ ドラムを叩いている時に、一番意識しているポイントを教えてください。
宇津本 歌う人の背中を押してあげよう



中央町児童館3階の多目的室で宇津本さんに取材をする、スポット編集員のガールズバンド「apollo」のメンバー。
※ apollo は p.8 で紹介

アポ 習っていた時期です。又、吹奏楽コンクール前の夏休みは毎日、他の部員とともに8~10時間練習していました。

アポ 今後、新しい試みに挑戦しようと考えていることがあれば教えてください。
宇津本 音楽を発信することにより、これからは次世代の人を育てることですね。一生懸命真剣に取り組んでいる人を世の中に送り出さなければ、その人達の目標が達成されるようにサポートすることです。

アポ 復興支援の取り組みを始めたのは、どのようなきっかけからでしょうか？
宇津本 自分の妻が福島出身で、年に2回は福島に行っているの、何かできないかなと思ったからです。妻の担任だった方が今は、南相馬市の学校の校長先生で、その子どもたちと先生が作った歌を世の中にし出してあげたいと思ったので、CDに出しました。

アポ 休日ば、何をして過ごしますか？
宇津本 中学生の子どもと一緒に過ごしています。一緒に何か食べに行ったり、彼

なドラミングです。

アポ 作曲はどのようにされていますか？
宇津本 実はいんて、ピアノ・ギターはほとんど弾けないんです。しかし、子どもの頃からメロディーが頭に浮かんでいました。作曲は、大学生ぐらいから本格的に始め、その頭の中のメロディーを電子楽器に落とし込んでいました。

アポ 今はパソコンでシーケンサーを使っていますか？
宇津本 基本的には作曲が先です。個人的には、作詞からの方が面白いと思っています。瞬間はどんな時ですか？

アポ 「音楽をやっている良かった」と思う瞬間はどんな時ですか？
宇津本 今は歌のレッスンなど教えることが多いので、その生徒さんの歌が上達し、感謝された時に嬉しいと感じます。

アポ 音楽に興味を持ったのはいつ頃ですか？
宇津本 3歳ぐらいから、レコードをよく聴いていました。中学生ぐらいから、テレビ番組の曲を記憶して、頭の中で変化させたりして遊んでいました。

アポ ドラムを選んだ理由は何ですか？
宇津本 打楽器のパートに好きな女の子がいたから（笑）。その子はとても打楽器

らの趣味につきあったりですね。
アポ 音楽以外の趣味を教えてください。
宇津本 本を読むことです。司馬遼太郎や吉村昭などの歴史小説が好きです。

アポ メンバーで仲良く、いい音楽を作っていくための秘訣を教えてください。
宇津本 バンドのメンバーみんなが、「お客さんに楽しんでもらうためのライブを作りたい」という同じ目標を持つことが大切ですね。自己主張だけでやっているバンドはうまくいきません。それと、スタジオは限られた時間しか使えないので練習の場所ではなく、音合わせの場所と考えてほしい。練習は各自が家でやってくるのが大事です。

アポ 本日はお忙しい中、お時間を取っていただき、ありがとうございます。最後に、これからミュージシャンを目指す中高生たちへメッセージをお願いします。
宇津本 プロになるには厳しいこともたくさんあります。またプロになることや、メジャーになることが全てではありません。しかし、自分の演奏を喜んでくれて、楽しみにしてくれている人がいれば、ある意味プロと言ってもらいのもよしかもしれません。自分のためではなく、誰かのために演奏するという気持ちを持つて取り組んで欲しいと思います。

用語解説
※1 DEEN: 1996年に結成された日本のロックバンドで、1990年代に「大ファンを巻き起した。代表作に「このまま君だけを奪い去りたい」「愛のうた」などがある。
※2 ユーニス: TUBE、ZARD、B'z、GARNET CROW、などと一緒に音楽制作会社。そのチームは、瀬戸



うつもとなほき
宇津本直紀 profile

1994年から1999年まで「DEEN」のドラマーとして活躍。作曲家としても、多くの楽曲を手掛ける。その後も作曲家、音楽制作者として番組のBGMやCMソングを制作。また、大手レコード会社にて音楽原盤制作ディレクター、音楽番組プロデューサーなどを経て、現在は作詞・作曲、音楽プロデューサー活動を行っている。音楽スクール「BRIO MUSIC」を設立し、ボーカリストの育成や指導に携わっている。

音楽プロデューサー・宇津本直紀さん ガールズバンド「apollo」が音楽家になる

が上手だったんです。すぐに転校してしまっただけで、その子が転校してないなれば、僕がパートリダーになることもなかったし、プロになることもなかったんだと思います。

アポ バンドを始めたきっかけを教えてください。
宇津本 高校生の時、友達からドラムを叩いてくれと言われたからです。自分からバンドをやろうと思っていなかったわけではありませぬ。DEENの時も、ドラムのメンバーが抜け、所属していた事務所内でドラムを叩ける人を探していたように、自分に声がかかりました。

アポ どのようにしてプロになったのですか？
宇津本 私の場合はオーディションがきっかけでした。100以上のオーディションを受けて、1つだけ受けました。それが「ビーン」という音楽制作会社のオーディションでした。バンドを組んで、ワンマンライブで300人くらいのお客さんが来てくれるようになれば、メジャーレベルも注目してくれれば、プロへの近道だとは思いますが、そうやってデビューできる確率はそんなに高くはありません。大学で音楽の勉強をしつかりておいて、オーディションなどで成えられる基礎を身に付けておくことが大事です。そして、良いメンバーと良いスタッフに巡り会ふことです。

取材を終えて
インタビューを通して、プロの方からアドバイスや経験談が聞けて良かったです。実際にドラムの生演奏を見学でき、私たちにここでも大きな刺激となりました。これを機会に日々練習に励みます。大機愛理、私はバンドでドラムを担当しているの、今回のインタビューはとても貴重なものになりました。特に、スタックを振るのではなく、重力に従って、落す感覚でドラムを叩くというアドバイスは聞いて「なるほど」と思いました。今後の活動に活用していきたいと思っています。北山ノエル

取材を終えて
インタビューを通して、プロの方からアドバイスや経験談が聞けて良かったです。実際にドラムの生演奏を見学でき、私たちにここでも大きな刺激となりました。これを機会に日々練習に励みます。大機愛理、私はバンドでドラムを担当しているの、今回のインタビューはとても貴重なものになりました。特に、スタックを振るのではなく、重力に従って、落す感覚でドラムを叩くというアドバイスは聞いて「なるほど」と思いました。今後の活動に活用していきたいと思っています。北山ノエル

アポ 音楽活動で大変だったことは、どんなことですか？
宇津本 ツアーが大変で身体を壊す人がたくさんいます。移動も大変だし、自由がないですね。ライブが終わると、列車や飛行機のチケットを渡され、次のコンサート会場へ移動する、といった感じで、毎日を過ごしていた気がします。

アポ では逆に、音楽活動をしてきて嬉しかったことは、どんなことですか？
宇津本 喜んでもらえることです。そしてレベルの高い人に認めてもらえることは嬉しいですね。マチュアへの頃に憧れた人、その憧れだった人をプロデュースした人に褒められた時です。

アポ 「音楽を一生の仕事にしたい」と決心されたのはいつ頃ですか？
宇津本 昨年ぐらいです（笑）。実は、音楽ではない仕事も考えていました。大学時代は2年間ぐらい別の仕事をしようとしていて、その活動もしていました。その間はドラムを叩くこともなかった。けれど結局は、音楽にいつも引き戻されます。

アポ コンサート前など、一日の練習時間はどのくらいですか？
宇津本 一番練習していた時期は、高校2年の3学期です。自分がパートリダーで下級生に教えないといけない立場の時、一日最低でも5時間は毎日練習していました。朝、昼休み、放課後と一番練習



「apollo」[Gloria]にドラムの演奏法を指導！

特別企画 ボーカリスト講座



▲11月10日（土）に、恵比寿ガーデンプレイス37階の会議室に、ボカロPの佐藤Pを迎えて開催された、「ボーカリスト講座」の様子。佐藤Pは、ボカロ作品のクオリティをより向上させようと、現在、宇津本直紀さんの作曲教室にも通っています。

2008年の頃からボカロファンをしています。佐藤Pです。ボカロの中でも特にKAITOが大好きで、溺愛ぶりを漫画化しKAITOとリンレンにおしゃべりをさせて動画にしたら、P名を頂いてしまいました。現在は作曲の猛勉強中。ボカロを歌わせてあげられるマスターになりたいと思っています。

ボーカリスト講座、ありがとうございます。講座以降、ボーカリストに興味がある、制作過程を知ることができてとても感動しました。やはり、曲作りは難しいと感じました。佐藤さんのおかげで、ボーカリストがより自分に近づく感じが、とても好きになりました。

ボーカリスト講座、とても面白かったです。ボーカリストに興味があり、制作過程を知ることができてとても感動しました。やはり、曲作りは難しいと感じました。佐藤さんのおかげで、ボーカリストがより自分に近づく感じが、とても好きになりました。